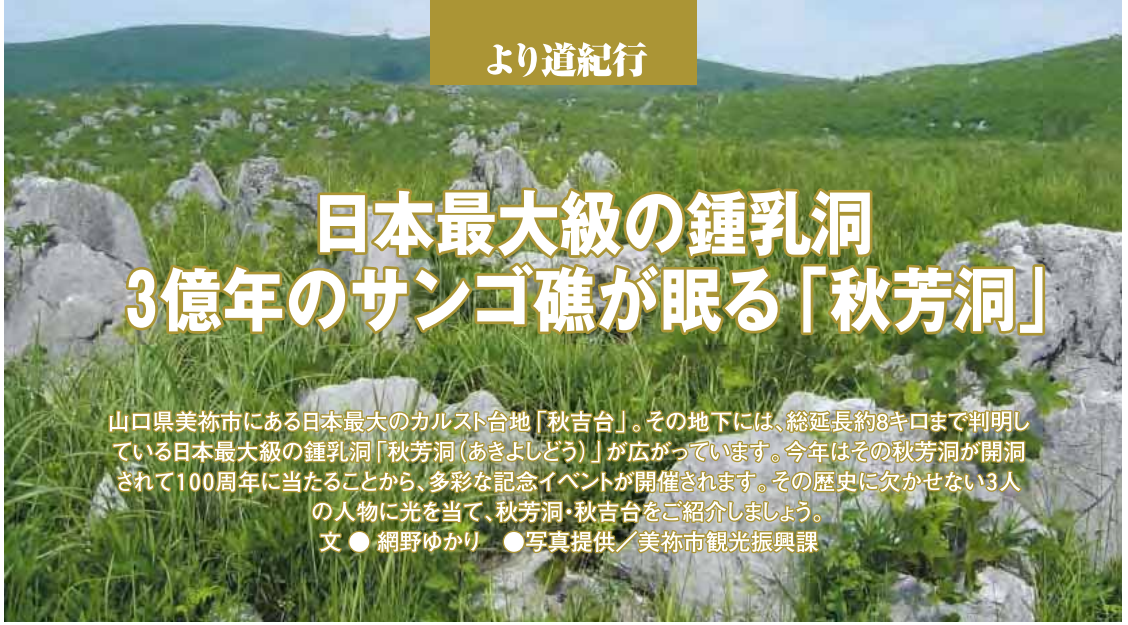


日本最大級の鍾乳洞 3億年のサンゴ礁が眠る「秋芳洞」

山口県美祢市にある日本最大のカルスト台地「秋吉台」。その地下には、総延長約8キロまで判明している日本最大級の鍾乳洞「秋芳洞（あきよしどう）」が広がっています。今年はその秋芳洞が開洞されて100周年に当たることから、多彩な記念イベントが開催されます。その歴史に欠かせない3人の人物に光を当て、秋芳洞・秋吉台をご紹介しましょう。

文●網野ゆかり　●写真提供／美祢市観光振興課

魔物が棲むと恐られた日本最大級の鍾乳洞

「秋吉台」には、判明しているだけで450近くの鍾乳洞が点在しており、中でも「秋芳洞」は日本最大級の鍾乳洞として知られています。

しかし、それほど大きな鍾乳洞の存在が、一般に知られるようになって、100年しか経っていません。それまで秋芳洞は「滝穴」と呼ばれ、絶えず水がごうごうと吐き出されてくる闇の洞窟には魔物が棲み、中に入れば生きて帰れないと恐れられていました。

その滝穴へ初めて入った人物とされているのが室町時代、地元の自住寺の住職だった大洞寿円禅師で、地元では「雨乞い禅師」と呼ばれています。

禅師がそう呼ばれるようになったのは1354（正平9）年、村を襲った大干ばつがきっかけでした。禅師は困窮していく村人の様子に耐えかね、滝穴での雨乞いを決意したのです。

滝穴にこもって断食、座禅を続けること37日、遂に雨が降り始めます。雨は滝穴の深い川にみるみる満ちて、禅師は仏に感謝を捧げるために自ら入水したのか、溺れてしまったのか、後日、禅師の亡きがらが寺の近くの川で発見されます。

村人たちは禅師の亡きがらを火葬して、その遺灰を練り込んだ粘土を用いて生前の姿を模した座像を作りました。その像は「骨灰の像」「遺灰像」とも呼ばれ、村が干ばつに襲われると、洞内に移して雨乞いを行う風習が明治時代中頃まで行われたのでした。

その座像は現在、秋芳洞の入口脇の開山堂に安置され、洞内から溢れ出る川の流れを見守り続けています。

希代の鉱山師による前代未聞 奇想天外な百年前の開窟式

魔物が棲むと恐られた滝穴を広く知られるようにした人物。それは滋賀県出身の梅原文次郎という鉱山師でした。

彼が秋吉台にやってきたのは1904（明治37）年のこと。秋吉台の一角にある鉱山の経営が目的でしたが、滝穴の話を聞いて中に足を踏み入れた彼は、そこに広がる神秘の世界に魅了され、観光化を思い立ちます。

彼は、英国王立地学協会会員で当時山口に住んでいた英国人エドワード・ガントレットらに学術調査を依頼し、やがてその結果を聞くと、多種多様な美しい鍾乳石に満ちた滝穴は世界に誇る鍾乳洞だと確信します。

彼は観光客を呼ぶため、洞内に桟橋や渡し舟などを設け、1909（明治42）年には、宣伝のため、奇想天外な「滝穴開窟式」を思いつきます。

まず、「世界無比の奇勝」と染め抜いたのぼりを東京から長崎まで150の主要駅に立てて開窟式をPR。当日には、洞内の「竜ケ淵」前で10俵ものもちまきを行い、洞内の「青天井」と名付けた広大な空間では相撲大会を行い、「黄金柱」と命名した華麗な紋様が刻まれた巨大な洞窟生成物の前では蓄音機による洞窟コンサートを開催。

秋芳洞は天井の高さ約30メートル、多種多様な洞窟生成物が連続する日本最大規模の鍾乳洞。

地上では、大競馬会を催し、優勝者には荷馬車で運ぶほどの賞品を贈呈…。この壮大な開窟式に、2万人が詰め掛けたといいます。

こうした梅原の活動によって、滝穴は知名度も学術面の評価も高まり、1922（大正11）年国の天然記念物に指定されます。さらに1926（大正15）年には、皇太子（後の昭和天皇）が行啓され、それを機に滝穴は「秋芳洞」と命名され、全国に知られるようになっていきます。

しかし、梅原はその栄えある行啓に接することなく、巨額の私財を費やして夢を賭けた秋芳洞の地を、その3年前、なぜか立ち去っていたのでした。

山田耕筰の義兄ガントレットが世界に紹介した神秘の鍾乳洞

秋芳洞の存在を世に広めた人物としてE・ガントレットも忘れることはできません。

彼は来日後、全国各地の学校へ赴任して英語を教えた教師で、梅原から調査を頼まれたときは、山口高等商業学校（現在の山口大学）に勤務していました。

ガントレットは、当時地獄の穴とも呼ばれていた秋芳洞の中へ自分のからだにロープを巻きつけて入り、完全な闇が支配する洞窟の中を松明の明かりだけを頼りに、洞内の川には舟を浮かべて果敢に奥へ奥へと探検を続け、地形を明らかにしていったのでした。

その後、彼はイギリスの雑誌に報告書を投稿し、秋吉台の鍾乳洞を世界に紹介する役割も果たします。

また、彼は日本のキリスト教の歩みの中で特に名を知られた英国人でもあります。彼は音楽家でもある牧師の家の生まれ。実母のおじには賛美歌の作曲家がいたほど音楽に囲まれて育ち、彼自身もオルガンの名手でした。

そんな彼の妻は日本人で、作曲家・山田耕筰の姉でもあり、耕筰が少年時代、西洋音楽の手ほどきを受けたのはガントレットからだったといわれています。

馬ころび（冠山南）
日本最大のカルスト台地「秋吉台」

人との共生によって守られてきた秋吉台の自然

秋芳洞は3億年前のサンゴ礁からなる石灰岩の台地が悠久の時と水の流れによって造り出されたもの。その魅力は、地上に点在する羊の群れのような石灰岩柱と草原とが綾なす、雄大な秋吉台の風景とともにあり、その風景は、草原の草を新しく芽吹かせて畑の肥料などにするための年一度の山焼きによって、はるか昔から保たれてきたものです。

人との共生によって初めて秋吉台の自然があり、また、その恩恵に感謝して守ってきた人々の暮らしが脈々と続いてきたことを、あなたも秋吉台を訪れ、知ってみませんか。

ポイントコラム1

大人気！「秋吉台地域エコツアー」で秋吉台の魅力を体感！

秋吉台では毎週日曜日、各分野の専門家が案内する「秋吉台地域エコツアー」が行われ、人気を集めています。秋芳洞観光コースの奥を探検するエコツアーや、美しい鍾乳洞がほぼ発見当時のまま保存されている普段は非公開の「中尾洞」を探検するエコツアー、秋吉台の野の花を楽しむエコツアー、日本最古の銅山跡を探検するエコツアー等々。いずれも要予約です。

ポイントコラム2

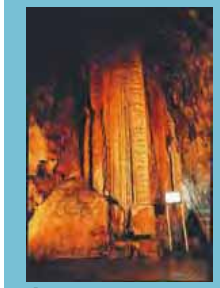
秋芳洞開洞100周年祭記念「光響ファンタジー・水と大地の神秘」

美祢市では今年、さまざまな開洞100周年祭記念イベントを開催中で、7月25日（土）から8月2日（日）まで、秋芳洞内で「光響ファンタジー・水と大地の神秘」と題したイベントが開催されます。これは東京タワーなどの照明を手掛けた世界的な照明デザイナー・石井幹子さんが洞内7カ所に新しい光を設置し、光と音による演出で、自然の造形を壮麗に浮き立たせようというものです。100周年祭のためのスペシャルな企画です。この機会にぜひどうぞ。

●お問い合わせ
山口県美祢市秋芳町秋吉
（秋芳洞観光センター内）
美祢市観光振興課
電話：0837-62-0304
http://www.karusuto.com/

秋吉洞 洞内の様子

秋芳洞の観光コースは1キロ。その奥にはさらに洞窟と水中洞窟が繰り返し続いており、全容は未解明。



「黄金柱」はかつて滝が流れ落ち、その水に含まれる石灰分が固まって華麗な紋様が造り出されたもの。

秋芳洞の代表的な洞窟生成物「百枚皿」。世界的にも類のない大規模なもの。